



横田 勉 議員

YOKOTA TSUTOMU



国民宿舎における指定管理者選定について

Q&A

**問** 12月13日の新聞報道によれば、「たつの、国民宿舎の指定管理者候補 施設存続最優先に選定」と掲載された。令和2年4月に指定管理を引き継ぐ予定の会社規模があまりにも小規模であるため、報道後には新規会社への継続を見合わせる従業員や転職希望が増加した。この現況の下、適正な従業員の確保が可能なか不安に感じている。また、地元への貢献度を聞く。

**答** 資本金が小規模であるため市としても動向を注視する必要がある一方、社長は責任感、企画力、獨創性、実行力、決断力ともに優れ、赤字経営であった他の施設を黒字回復させた手腕に大いに期待している。

従業員の確保には、地元雇用に最優先する考えであり、現状の条件を確保したうえで雇用する。

また、両荘を任せるに当たり、安定した経営が確立するまでは、毎月又は定期的な業績推移の報告や緊密な連絡体制による状況把握に努める。地元住民との関係は、住民を巻き込んだイベントの重要性は認識している。

**自分のルーツを基盤として、日本と海外との懸け橋となる若者の育つ町ーたつの市**

**問** 現在、市内には650人以上の外国人が在住されている。その家族の子供たちが日本語の壁に悩んでいる。国際交流協会では、ボランティアでの指導をしているが、市として日本語教育の教師もしくは専門員を学校に巡回指導できないか。

**答** 外国籍の児童生徒は、小学校に10名、中学校に5名在籍している。また、国籍は日本であっても、日本語指導が必要な児童生徒もおり、今後、増加すると見込んでいる。現在も「子ども多文化共生サポーター」や「日本語理解指導員」を派遣しているが、これらの取り組みに加えて、放課後を利用した日本語教育を行う制度の創設を検討する。

宮内川・栗栖川合流付近の災害対策の取組状況は

Q&A

**宮内川改修の防災・減災対策について**

**問** 国土交通省は栗栖川河川改修計画を進めているが、宮内川が栗栖川と合流する付近の市の排水対策を問う。

**答** 当地域では、国土交通省が実施した栗栖川井堰統合等により、栗栖川の流下能力が改善されている。本市においても石積堤防、川床の補修や土砂の浚渫による流下能力の改善対策を実施しているが、全体的な改修については、揖龍南北幹線道路との調整が必要であり、現在検討中である。

**里道及び水路の地元管理について**

**問** 過疎化・高齢化が進む、特に中山間地域の里道及び水路（国から市が譲りを受けた法定外公共物）の適切な管理方法について、市の対策が必要でないか。

**答** 里道及び水路は、古くから地域住民の日常生活に密着した共有財産であるため、地域の皆様に感謝をしつつ、今後も引き続き維持管理をお願いしたい。

地域の負担軽減のための支援制度として、生活道路等整備事業による工事費、原材料費などの支援を行っている。人家が連担しているなど現場の状況によって、支援できるか検討したいので相談してほしい。

**揖龍南北幹線道路大鳥踏切以北区間の整備について**

**問** 揖龍南北幹線道路大鳥踏切以北区間の整備について平成30年6月議会で質問を行ったが、その後の市の取組状況を伺う。

**答** 兵庫県龍野土木事務所と合同で、地域の交通量、事故状況等の調査を行い、道路の必要性を整理し、社会基盤整備プログラムへの位置づけへの道筋を検討している。揖龍南北幹線道路は、「令和跨線橋」の完成により国道2号以南の道路整備が完了し、本市では新宮地域を残すのみとなるので、より一層事業化への要望を行っていく。



高岸 博之 議員

TAKAGISHI HIROYUKI

